

## <感想>

歩道橋に関する国際会議「Footbridge 2008」に出席し、論文発表および海外の研究者や実務者らとの交流を行った。本会議には、世界 34 ヶ国より、300 名を超える参加者があり、歩道橋の計画、設計、施工、景観デザイン等の話題について、積極的な議論が交わされた。

わが国の歩道橋は、いわゆる立体横断歩道橋としてのイメージが強く、どちらかといえば、自動車優先の交通社会における歩行者用通路として位置づけられているが、ヨーロッパ諸国では、歩行者優先社会のインフラ施設として、建築家と協同してデザインされた歩道橋が近年注目を浴びてきており、都市の魅力を向上させるためのツールとして利用されている。今回の会議のテーマも、「Footbridges for Urban Renewal」であり、都市再生の一環として、歩道橋が位置づけられているのがよく分かる。このようなことから、本会議は、エンジニアだけでなく、建築家の参加者も多く、エンジニアと建築家が一堂に会して歩道橋について議論するというユニークな国際会議であった。内容も、理論や設計基準、設計手法等に関する研究発表だけでなく、設計事例を紹介する発表も多く、民間の設計実務者が、大学関係者と同数程度参加していた。

今回、京土会より助成金を得て本会議に出席できたことは、非常にありがたい、また、有意義なことであった。本会議で得た刺激を、今後の研究にも役立てたい。